



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」（人間の科学新社・共著）等

「まんさくじいさん料理人」

はじめにお断りいたします。タイトルの「まんさく」さんは、実存の人物ではありません。ご了承ください！

新潟県は方言や民話、そしてことわざの宝庫である旨をお伝えしてきましたが、この「まんさくじいさん」は佐渡のある地域に伝わることわざの登場人物です。

「今日は、わしのご馳走してやるから家に来いっちゃ」とまんさくじいさんが、近隣の人に触れ回りました。

「それじゃ、よばれましょて（ご馳走になりましょの意）」とまんさくじいさん家（ち）に隣近所数人が集まったところ、じいさんは

「まず、酒の爛つけて、ほれ、徳利そこにあるっちゃ」と近隣Aに爛酒の用意を命令。次に

「ほれ、あんた、ブリ捌いて、包丁、まな板そこにあるっちゃ」と近隣Bにブリ大根の下ごしらえさせたかと思ったら、今度は近隣Cに

「大根は畑だっちゃ、外に行ってとって来いちゃ」

「そーいや、醤油切らしてたっちゃ」と近隣Dにわざわざ自宅まで醤油を取りに行かせ、結局ああせー、こうせー、と他人に指図ばかりで何もみませんでした！めでたくなし、めでたくなし。というように「自分は何もせずに、他人を動かすこと、ひいては、口約束、実行なしの戒め」を意味したことわざです。

周りにいたら、大変迷惑、でも、誰しもが程度の差こそあれ、まんさくじいさんに似たような事はやらかしてしまうことがある、そんな我々の日常をチクリと

風刺したような感じもして、先人たちのことばに対する知恵や人間観察と洞察力にあらためて気づかされます。

実際、まんさくじいさんが存在したのかどうかは定かではありませんが、島のなかの小さなコミュニティから生まれた「生活のなかのことば」といえましょう。

また、「まんさくじいさん」と個人名を織り込むユニークな語のため、このことわざがいつそう身近で、記憶にも残りやすいことから、いつ誰が言ったか知らないぼやきやつぶやきが伝達、使用され「ことわざ」となって定着してきたことも窺えます。

こんな身勝手なまんさくですが、「じいさん」とサン付けです。地域の中の困りもんも、決して排斥しないということが見てとれて、小さな地域の中の人情も感じられます。

県内のなかでも歴史や民話等の地域色が濃い佐渡は、地域のことばやことわざの宝庫でもあるということに改めて気づかされる「まんさくじいさん」。なお、佐渡にはこれ以外にも他の地域に類をみないことわざも多くありますので、また改めてご紹介したいと思います。とこちらは紺屋のあさってです。

